

タマネギ中規模機械化栽培体系と 春まき栽培の現地実証

技術の概要 及び 期待される効果

○機械化栽培体系

収量を確保しつつ慣行手作業体系よりも労働時間を削減できる



全自動播種機



剪葉機(トリマー)



半自動移植機



目標収量5t/10a



収穫機



収集機(ピッカー)

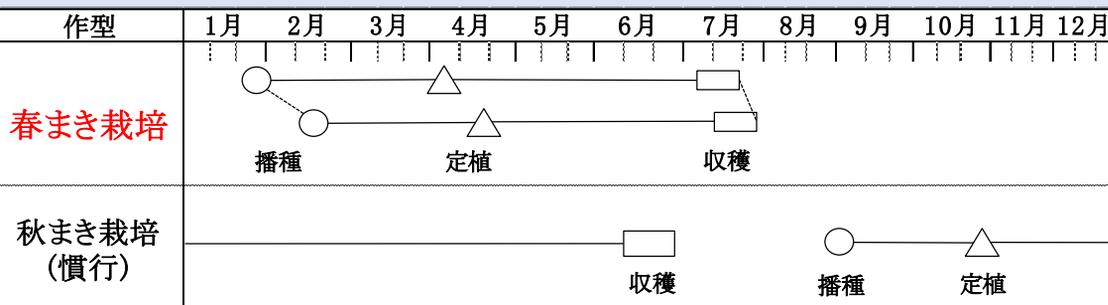


ハウス内乾燥

- ・作業時間
慣行よりも50%以上
削減される

○春まき栽培体系

- ・慣行秋まき栽培と春まき栽培の組み合わせで、ほ場と機械の効率的な利用が可能となる
- ・1~2月播種、貯蔵性の良い品種、早めの病虫害防除によって目標収量(5t/10a)を確保できる



・7月収穫
(慣行作型との
労働分散)

【お問い合わせ先】

宮城県農業・園芸総合研究所 バイオテクノロジー開発部
(TEL: 022-383-8131)